

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper' fresco. It depicts Jesus Christ and his twelve apostles seated around a long table in a room with a grid-patterned ceiling and several windows. The scene is captured in a dramatic, low-key lighting, with the figures' faces and hands highlighted against the dark background. The text is overlaid on the central part of the image.

西洋美術史ゼミ

第6回

中世II (ロマネスク美術・ゴシック美術)

発表者 あまづん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



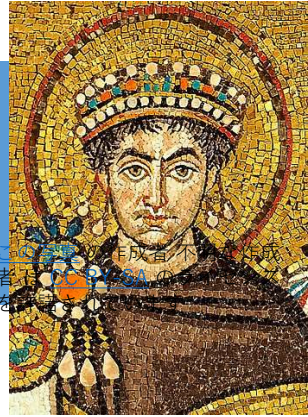
ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



前回の内容(世界史)

- 前回は**ビザンツ帝国**と**フランク王国**について扱いました。
- 395年に**ビザンツ帝国**が誕生しました。6世紀に**ユスティニアヌス大帝**が在位し最盛期を迎えましたが、その死後に衰退しました。7世紀に**イコノクラスム**（**聖像論争**）が起こり、それが収まった後のマケドニア朝の時代に一時的に復興しましたが、1261年に滅亡しました。
- **ゲルマン人の大移動**が起こり、フランク人が**フランク王国**を建国しました。**メロヴィング朝**と**カロリング朝**の時代に繁栄しましたが、九世紀に分裂しました。



前回の内容(美術)

- **ビザンティン美術**では、第一次黄金期においては**円蓋式バシリカ**が生まれたり、**イコン**が発展したりした。**イコノクラスム**後の第二次黄金期では、**ヘレニズム期の古典的伝統**に立ち返った。
- **初期中世美術**では、メロヴィング朝においては**貴金属工芸**や**写本**が多く制作された。カロリング朝においては**カロリング＝ルネサンス**によって土着文化、キリスト教文化、古典主義の三者が融合した文化が花開いた。



本日の内容

世界史について

- 中世ヨーロッパ（～15世紀）

美術について

- ロマネスク美術
- ゴシック美術

全体の概略

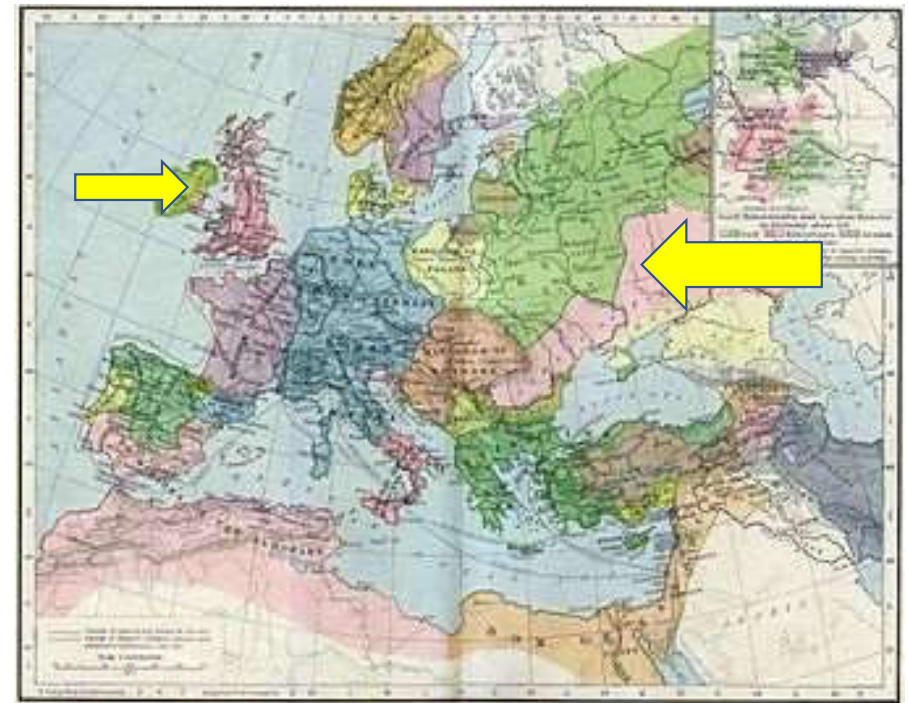
- フランク王国が分裂し、カペー朝（フランス）とイタリア王国と神聖ローマ帝国（ドイツ）に分かれました。
- ロマネスクとゴシックが語られる際にはその違いが問われてきました。二つの特徴の相違について注目しながら聴講していただけだと思います。

本日の内容

- **世界史：ノルマン人の活動**
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- 世界史：イギリスとフランス
- 世界史：ドイツとイタリア
- 美術：ロマネスク美術
- 美術：ゴシック美術

世界史：ノルマン人の活動

- 西ヨーロッパは8～10世紀にかけて**ノルマン人**などの異民族の侵略が続いており、彼らはヨーロッパ各地に進出することとなる。
- ノルマン人が建国した主な国にイングランドの**ノルマンディー公国**（→**ノルマン朝**）とロシアの**ノヴゴロド国**（→**キエフ公国**）がある。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- **世界史：封建社会の成立と十字軍**
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- 世界史：イギリスとフランス
- 世界史：ドイツとイタリア
- 美術：ロマネスク美術
- 美術：ゴシック美術

世界史：封建社会の成立(1)

- 8～11世紀の西ヨーロッパでは異民族（ノルマン人）の侵入が続いたことで商業が衰退し、**農業中心の自給自足的な現物経済**へ移行した。
- この中で弱者（農民）が強者（王、貴族、聖職者など）に保護を求める傾向が強まり、**封建社会**が始まった。



世界史：封建社会の成立(2)

- 封建制度は**封建的主従関係**と**荘園**の二つの仕組みの上に成り立つ。
- 封建的主従関係とは、主君が家臣に領地を与えて保護する代わりに家臣に対する軍事的奉仕の義務を負う仕組みであり、荘園とは主君の領地である。

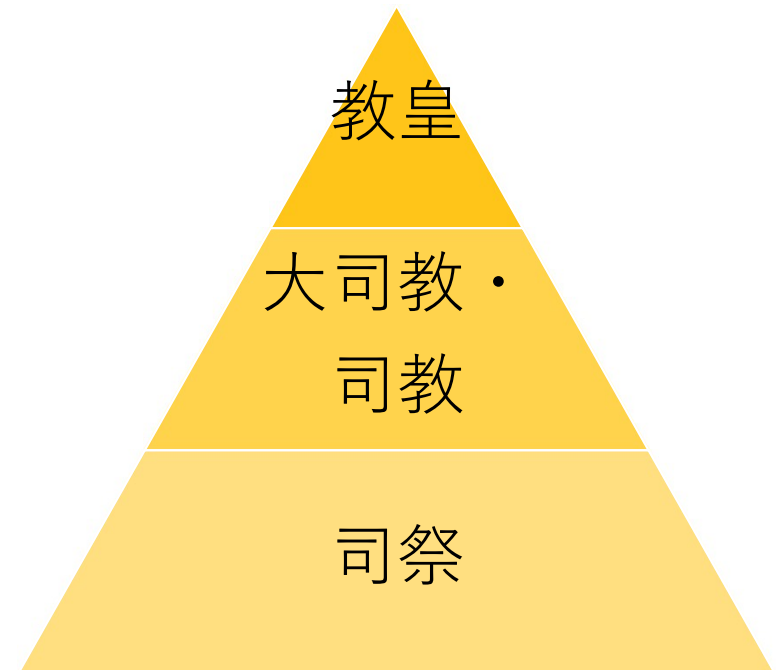


この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

中世ヨーロッパの荘園の様子

世界史：封建社会の成立(3)

- ローマ・カトリック教会は封建社会と一体化し、西ヨーロッパに**普遍的な精神的権威**を確立した。
- 教会ではローマ教皇を頂点にしたピラミッド型の**階層制組織**を形成したが、農民から税を取り立てるなど世俗権力を得ることで**世俗化**が進んだ。



世界史：封建社会の成立(4)

- 世俗化による教会の腐敗や墮落に対して**クリュニー修道院**を中心に粛清・浄化運動が展開された。
- この影響を受けたローマ教皇の**グレゴリウス7世**はこの改革を推し進めたが、神聖ローマ帝国（ドイツ）の**ハインリヒ4世**は反対した。しかしハインリヒは教会に破門されて謝罪することとなり、これを**カノッサの屈辱**（1077）という。
- その後教会の権威は増長し、教皇**インノケンティウス3世**（在位1198～1216）の時代に絶頂期を迎える。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

インノケンティウス3世

世界史：十字軍(1)

- 封建社会が安定した11～13世紀は温和であり、人口が増加した。そして、都市と商業が発展し、交通も発達した。
- このような状況下において、**十字軍**の遠征が行われ、**聖地エルサレムをイスラームの支配から奪還すること**を目指した。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

世界史：十字軍(2)

- 1096年から1270年にわたり合計7回の遠征が行われたが**失敗**に終わった。
- その影響により教皇の権威は失墜し、一方国王の権力は強まった。そして、文化的側面ではギリシア・ローマ文化が伝わることでイタリア＝ルネサンス運動への刺激となった。

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- **世界史：中世ヨーロッパ社会の変容**
- 世界史：イギリスとフランス
- 世界史：ドイツとイタリア
- 美術：ロマネスク美術
- 美術：ゴシック美術

世界史：中世ヨーロッパ社会の変容(1)

- ここでは中世ヨーロッパ社会がどのように変化してきたかを述べ、個別の地域に関する説明の足がかりとする。
- 封建社会の安定を背景として**農業生産が発展**し、余剰生産物が出るようになった。こうして商業が発展するのに伴い**貨幣経済**が広がり始め、都市が発展した。



世界史：中世ヨーロッパ社会の変容(2)

- 都市の勢力が強まり、国王や諸侯から独立して自治するようになった。自治の中心となったのが**商業ギルド**であり、商品の品質、規格、価格などを統制した。
- また、14世紀には西ヨーロッパの気候が寒冷化し、**黒死病**（**ペスト**）が流行した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- **世界史：イギリスとフランス**
- 世界史：ドイツとイタリア
- 美術：ロマネスク美術
- 美術：ゴシック美術

世界史：イギリスとフランス(1)：イギリス

- 13世紀ごろから、ヨーロッパ各国では貴族・聖職者たちと国王との間で課税などの対立を調整するために**身分制議会**が開かれた。
- イギリスにおいて、1066年にノルマン朝が建てられていたが、これは征服によって建てられた（≠分裂など）ので例外的に**最初から王権が強かった**。
- 1154年にノルマン朝が断絶した後、同年にフランスの**アンジュー伯**が**プランタジネット朝**を成立させた

世界史：イギリスとフランス(2)：フランス

- フランスでは、12世紀後半以降カペー朝の王権が伸長して、領土を拡大していった。
- **フィリップ4世**は出兵失敗による聖職者課税をめぐって教皇と対立したが、その際聖職者・貴族・平民からなる**三部会**を招集し、その支持を得て王権を強化した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

フィリップ4世

世界史：イギリスとフランス(3)：百年戦争

- 1328年にシャルル4世が死亡してカペー朝（フランス）が断絶した。それを受けてフランスの**フィリップ6世**が即位したものの、カペー朝出身のイギリス国王**エドワード3世**が王位継承権を主張したことで、この二国間で**百年戦争**（1339～1453）が起こった。
- 背景には領土・経済問題があった。前半はイギリスが優勢だったが、ペストの流行やジャンヌ＝ダルクの活躍により最終的に**フランスが勝利**した。
- 戦後、イギリスもフランスも騎士・諸侯が没落し王権が伸長した。

世界史：イギリスとフランス(4)：バラ戦争

- 百年戦争後、イギリスでは**ランカスター家**と**ヨーク家**が王位継承をめぐって内乱が起こった。これを**バラ戦争**といい、その由来は両家の紋章がそれぞれ赤ばらと白ばらであることによる。
- 両家は激しく戦ったが、ランカスター派の**ヘンリ**（→**ヘンリ7世**）が**テューダー朝**を開き内乱を終結させた。
- その後ヘンリ7世は**星室朝裁判所**（国王直属の裁判所）を用いて内乱で力を失った貴族を抑え、**絶対王政の基礎**を作った。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- 世界史：イギリスとフランス
- **世界史：ドイツとイタリア**
- 美術：ロマネスク美術
- 美術：ゴシック美術

世界史:ドイツとイタリア(1):ドイツ

- ドイツでは神聖ローマ皇帝が**イタリア政策**を行いイタリアに介入していた。しかし内政が疎かになっており、実質的に皇帝が不在の状態になっていた(**大空位時代**)が、1273年**ハプスブルク家**の**ルドルフ1世**が即位して大空位時代は終わった。
- 1356年に皇帝**カール4世**が**金印勅書**を發布して、聖俗7人の選帝侯が皇帝を選出することを決めた。
- しかし15世紀前半からはハプスブルク家から選出することが慣例となったが、皇帝の国内統一がうまくいかず、大小**300ほど**の**領邦が分立**する状態が続いた。

世界史:ドイツとイタリア(2):イタリア

- イタリアはドイツ同様多数の国・諸侯・都市に分かれていた。
- 北部では**ヴェネツィア**・**ジェノヴァ**・**フィレンツェ**などの有力な都市や**ミラノ公国**などが覇権を争った。
- 中部はローマ教皇領（c.f.イタリア政策）であり、南部では**両シチリア王国**が**シチリア王国**と**ナポリ王国**に分裂した。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- 世界史：イギリスとフランス
- 世界史：ドイツとイタリア
- **美術：ロマネスク美術**
- 美術：ゴシック美術

美術：ロマネスク美術(1)：概要

- 11世紀後半から12世紀にかけてのヨーロッパ美術を**ロマネスク美術**と呼ぶ。
- この時代はかつてない社会的変化をいくつか経験した。安定した農村生活を支えとする**修道院の復興**や、十字軍の派遣、**聖遺物崇拜**の高揚による聖地巡礼、輸送や建築工法の技術革新などがそれである。
- 上記の変化に影響を受けた美術は修道院を中心に繰り広げられ、石造りの修道院や教会堂、石像彫刻、壁面のフレスコ画、写本装飾などに顕著である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

《エッケハルトとウタの彫像》

美術：ロマネスク美術(2)：建築と彫刻(1)

- ロマネスクの建築の特徴として、**重厚な石壁**と窓が小さいことによる**薄暗い内部空間**がある。これは初期中世の建築様式をさらに発展させたものであった。
- 建築技術の向上により、アーチを平行に押し出した形状の**ヴォールト**が登場する。(第4回補足資料参照)
- また、聖遺物信仰の発展により**巡礼が急増**し、**聖堂の建築**が多くなされた。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

《サン・セルナン大聖堂》

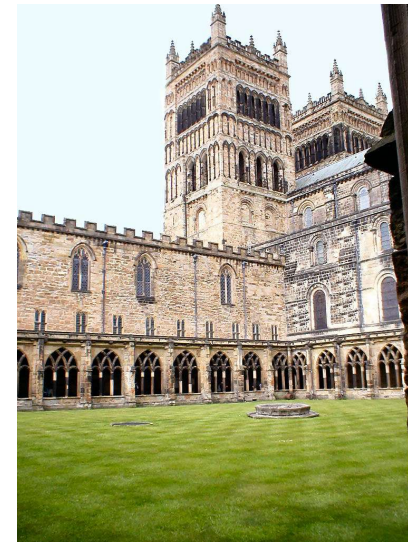
美術：ロマネスク美術(3)：建築と彫刻(2)

- ロマネスク建築において特に有名な作品は**サン・セルナン大聖堂**や**ダラム大聖堂**がある。



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

《サン・セルナン大聖堂》



[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

《ダラム大聖堂》

美術：ロマネスク美術（4）：建築と彫刻（3）

- 彫刻においては、建築を構成する部材に施された**浮き彫り**を中心に、石を素材とする彫刻が広い地域で用いられるようになる。
- **建築装飾**として作られた作品が主で、建築構造から課せられる「**枠組**」と常に関係を持っていた。そのため人像や動物はその自然なプロポーションが無視され、**デフォルメ**されている。



Basilica of Saint Magdalene – Central tympanum of the Saint Magdalene narthex (1140-1150)

Jean-Pol GRANDMONT - 投稿者自身による作品, CC 表示 3.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=6355630>による

美術：ロマネスク美術(5)：壁画

- ロマネスクの壁画は基本的に修道院の壁面に描かれた。そのため、**聖書や聖人をテーマ**にしたフレスコ画が多い。
- ビザンティン美術や、大胆な装飾や強烈な色彩対比を特徴とする**モサラベ美術**（イスラムの影響を受けたキリスト教美術）の影響を受けた美術が発展した。
- 人物を**記号的**に捉えた絵画で、またモサラベ美術の影響で**色彩豊か**でもあった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

《栄光のキリスト》

美術：ロマネスク美術(6)：写本装飾や工芸

- これまで建築、彫刻、絵画を取り上げましたが、ロマネスクの時代に中心を成していたのは**持ち運び可能なもの**であった。
- これらは主に**書物、工芸、布製品**であった。
- 特に工芸が重視されており、**聖遺物を保護する容器**が絢爛豪華に飾り立てられた。
「**聖女フォワの聖遺物容器**」が有名である。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA-NC](#) のライセンスを許諾されています

《聖女フォワの聖遺物容器》

本日の内容

- 世界史：ノルマン人の活動
- 世界史：封建社会の成立と十字軍
- 世界史：中世ヨーロッパ社会の変容
- 世界史：イギリスとフランス
- 世界史：ドイツとイタリア
- 美術：ロマネスク美術
- **美術：ゴシック美術**

美術：ゴシック美術(1)：概要

- ゴシック美術はロマネスク美術の延長線上にあったものの、多くの点で前時代と**対照的**であった。
- ロマネスク期が**思弁的**であったのに対して、ゴシック美術は**人間的で写実的**なものであった。
- この動きの背後には**社会環境の変遷**があり、文化の担い手が**聖職者から裕福な平信徒や大学を拠点とする知識人**など**広範な社会層**に変化したことが**要因**である。



クラウス・スリューター 《モーセ》

美術：ゴシック美術(2)：建築

- **ノートルダム（ランス）大聖堂**を始めとするゴシック建築だが、この時代は建築技術が発展し、**リヴ・ヴォールト**（アーチによって補強されたヴォールト）という技法が誕生した。これにより石材を節約できるようになり、**巨大な建築**が多く作られるようになった。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/) のライセンスを許諾されています

《ランス大聖堂》

美術：ゴシック美術(3)：彫刻

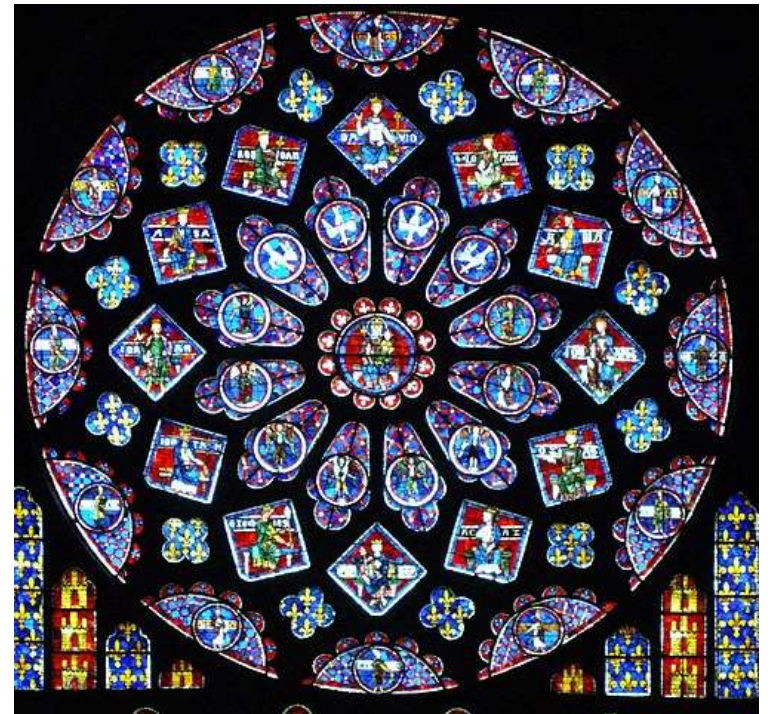
- ゴシック美術のなかでもっとも存在感があるのは、石を素材とする彫刻の分野である。
- ロマネスクに引き続き建築装飾が多いが、**独立した彫像**が新たに作られるようになった。
- コントラポストや流麗な衣装のひだなど、**古典主義的**な美の理想を実現しようとした。



クラウス・スリューテル 《モーセの井戸》

美術：ゴシック美術(4)：ステンドグラス

- ゴシックの聖堂建築では、規模の大小はあるものの、**ステンドグラス**が用いられていた。
- ステンドグラス自体はロマネスクの時代でも使われており、制作技術もそれほど変わらないものの、建築技術の発展により開口部の面積が格段に拡大したため、**巨大な作品**が多く作られるようになった。
- 聖書や聖人伝をテーマとした作品が広く制作された。



《Rose windows of the Chartres Cathedral in Chartres (France)》

Harmonia Amanda - 投稿者自身による作品, CC 表示-継承 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=7652789>による

美術：ゴシック美術(5)：写本彩飾と板絵

- 13世紀になると、大学の発展など社会的背景から**写本**の需要が増加し、修道院から都市の職人たちの工房へと生産拠点が移行し、**専門的分業体制**が確立された。
- **ジャン・ピュセル**が有名で、従来の平面的な手法に対し彫像のような**立体的な人物表現**を行うことでパリの写本彩飾に衝撃を与えた。
- この時期小規模の**板絵**（木の板に描かれた絵）も大きく発展し、プライベートな祈りによく用いられるようになっていく。



この写真の作成者 不明な作成者は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

ジャン・ピュセル 《キリストの逮捕》

美術：ゴシック美術(6)：工芸とタペストリー

- 中世の時代ではあらゆる美術作品が使用されることを前提として作られていた。この特徴がはっきりとあらわれているのが**工芸**と**タペストリー**の分野であった。
- 写本と同様に工芸も**専門的分業**が行われ、**聖遺物容器**や機械仕掛けの**自動装置**が作られた。
- 織物が工業化された現代とは異なり、当時は**タペストリー**や**刺繍**など布製品の所有には、権力と財産を誇示する面があった。
- 多くのすぐれた専門家や工房が関わり、大量の高価で優れた作品が製作され、聖俗の権力者に好まれた。



《味覚》

《貴婦人と一角獣のタペストリー》より

本日のまとめ

- **封建社会**が成立し、**十字軍**が起こった。その後**貨幣経済**が発展し、イギリスとフランス間で**百年戦争**が起こり、その合間に**ペスト**が流行した。
- ロマネスク芸術は封建制を背景に修道院を中心に繰り広げられた。建築は**石壁**と**暗い内部空間**が特徴で、建築装飾として彫刻が用いられた。また**聖遺物容器**として工芸が発展した。
- ゴシック美術は対照的に**人間的で写実的**なもので、建築は大きくなり、彫刻は建築から独立した。また、写本や工芸は専門化された。

次回の内容

- 次回は**イタリア初期ルネサンス美術**と**15世紀の北方美術**について学びます。
- ルネサンスとは「再生」を表す言葉で、これまで部分的に継承されていた古典文化がここにきて全面的に復活することとなります。自然の美や現実世界の価値が再発見されたこの時代、いかにして芸術が発展していくのでしょうか。
- 関連ワード
 1. ヴィーナスの誕生
 2. ヤン・ファン・エイク

